

埼玉県学力・学習状況調査（小学校）

復習シート 第四学年 国語



組	番号	名前	模範解答
---	----	----	------

【「言葉」を問う問題】

- 1 次の文の「」のカタカナを漢字で書く場合、正しいものを1～4の中から、えらびましよう。

シン|実は、一つとはかぎらない。

3

レベル4

4	3	2	1
心	真	深	神

- 2 次の文の「」の漢字の読み方を、□に書きましよう。また、その読みが、「音読み」と「訓読み」のどちらの読み方か、書きましよう。

バスに|乗車する。

読み方

ジヨウ

音・訓

音

レベル6

- 3 次の文の「」線部に対する主語をぬき出して書きましよう。

レベル6

(1) きのうち わたしは、学校の帰り道で タヌキを 見た。

わたしは

(2) ぼくは、遠足で 食べた お弁当が、とても おいしかった。

主語は、「だれが(は)」「なにが(は)」に当たる言葉です。

お弁当が

4 次の文章の「ア・イ」にあてはまる「こそあど言葉」を、あとの1～4の中から、それぞれ一つえらんで書きましょう。

レベル4

1 お母さんが、ぼくの大^す好きな牛肉を使^りって、料^り理を作ってくれた。ぼくは、「ア」を、涙^{なみだ}を流しながら、おいしくい食^たべた。

2 今、校庭で体育をしている。わたしは、「イ」に、歩いてきた。

4	3	2	1
それ	この	ここ	そこ

ア
4

イ
2

5 次の文の線部がくわしくしている言葉としてあてはまるものを、線部から一つえらんで書きましょう。

レベル5

1 今日^{きょう}の給食^{ききう}はきのうと比べて量^{りょう}が多^{おほ}かった。

多^{おほ}かった

2 かわい子^こ犬^{いぬ}が校庭^{けうてい}を元^{もと}気に走^{はし}っている。

子^こ犬^{いぬ}が

主語、述語、修飾語をはつきりとさせてから考えましょう。

6 次の□の中の漢字の「へん」と「へんの名前」を、あとの□に書きましょう。

レベル4

服

へん

月

へんの名前

つきへん

埼玉県学力・学習状況調査（小学校）

復習シート 第四学年 国語



組

番号

名前

模範解答

【「話すこと・聞くこと」を問う問題】

- 1 宮本さんのクラスでは、学校のお気に入りの場所について発表することになりました。宮本さんと多田さんのやり取りを読んで、あとの問いに答えましょう。

【宮本さんの発表】

ぼくのお気に入りの場所は、北校しやと南校しやの間にあるなかよし広場です。なかよし広場がすきな理由は、二つあります。

一つ目は、気持ちのよさです。しばふが植えられているので、夏はすずしく、冬はあたたかく感じます。そして、まわりに木や花があるので、きせつを感じることが出来ます。木かげで休んだり、しばふの上を思い切り走り回ったりすることもできます。

二つ目は思い出の場所だということです。しばふの上にビニールシートをひいて、図書館でかりた本をみんなで読んだことをおぼえていますか。みんなとさらになかよくなれました。

このように、なかよし広場は、わたしにとって、お気に入りの場所です。これからも、この場所でたくさんさんの時間をすごし、いろいろな思い出を作っていきたいと思います。

【多田さんのアドバイス】

宮本さんの話を聞いて、なかよし広場を気に入っている理由がよく伝わってきました。ぼくたちに、話しかけるように発表していたのも、とてもよかったです。

ぼくも、クラスみんなで、本を読んだことは、とてもいい思い出です。本を交かんして読み合ったり、本の感想を話したりして、さらに友だちとなかよくなれたと思っています。そのことをもう少し詳しく話してみてもいいでしょう。

【宮本さんのメモ】

◎理由

◎話しかけるように

△思い出くわしく ↓どうしてなかよくなれたか

(1) 宮本さんは多田さんのアドバイスを聞いて、【宮本さんのメモ】を書きました。宮本さんは、自分の発表にどんな話をつけくわえようと考えましたか。もつともふさわしいものをア～エの中から一つえらびましょう。

レベル7

ア クラスの友だちとなががいこと。

イ しばふのおかげで転んでもいたくないということ。

ウ いっしょに本を読んで、クラスの子とさらになかよくなれたこと。

エ 木があるおかげで、冬はつめたい風をふせぐことができるということ。

ウ

メモの内容から、宮本さんがつけくわえようと思っていることを読み取る問題です。メモには「△思い出くわしく ↓どうしてなかよくなれたか」と書かれているので、どうしてなかよくなれたのかをくわしく伝えようとしているのがわかります。なぜなかよくなれたのか理由が書かれているのはウだということがわかります。

(2) 多田さんが、アドバイスした理由として、もつともふさわしいものをア～エの中から一つえらびましょう。

レベル7

ア 理由を二つに分けて話していたのが、わかりやすかったと伝えたかったから。

イ 「さらになかよくなれた」理由をつけくわえれば、宮本さんの気に入っている理由がより伝わると思ったから。

ウ 宮本さんの話をもつと聞きたかったので、話を長くする方法を教えたかったから。
ほうほう

エ 宮本さんに、自分の楽しかった思い出を伝えたかったから。

多田さんが一番伝えたいと思っていることを読み取る問題です。

多田さんは宮本さんがなかよし広場を気に入っている理由がより伝わるようにアドバイスをしているので、ウだということがわかります。

イ

ア 理由を二つに分けて話すことはすでにできている。

ウとエ 自分のしたいことを伝えているだけ。

埼玉県学力・学習状況調査（小学校）

復習シート 第四学年 国語



組

番号

名前

模範解答

【「書くこと」を問う問題】

1

次のA～Dの文章を読んで、問いに答えましょう。

A 本番、ステージにあがると、心ぞうがどきどきして、リハーサルの事を思い出すときんちようしました。でも、先生が「大じようぶだよ。」というように、にっこりわらってくれたので、少し安心しました。

B 練習が始まったところは、なかなかうまくできなくて、本当にできるようになるのかなと、ふあんでした。でも、休み時間に友だちと練習したり、家でも練習したりして、少しずつできるようになりました。前日のリハーサルでは、何度も練習してきたところがうまくできなかったので、発表でうまくえんそうできるか心配していました。

C 今日は、待ちに待った音楽会でした。わたしたちは、合しようと、リコーダーを使った合そうを発表しました。

D えんそうが始まると、みんなの心が一つになったような気がした。今までの練習してきたせいかが出て、一番よかったと思います。お客さんからも大きなはく手をたくさんもらって、とてもうれしかったです。

(1) A～Dを、文章が続くようにじゅん番にならびかえましょう。

レベル5

時間のじゅん番に気を付けて読みましょう。

C
↓
B
↓
A
↓
D

(2) ——— 線部を、他の文章の表げんに合わせて直しましょう。

レベル7

文を書くときは、「～です。～ます。」か「～だ。（言い切り）」のように、文の終わりをそろえます。

気がしました

2

次の文章は、プールに行ったことについて書いた作文の一部です。この文章の表げんの工夫についてせつ明したものととして、もつともふさわしいものをあとの①～④の中から一つえらびましょう。

レベル7

今日は、朝から太陽がぎらぎらとまぶしく、目を開けているのがやつとでした。プールに行きたいと思っていたので、「プールに行こう。」と言われたときは、うれしくて、とびはねてよろこびました。プールに行くときに、道にさいていたひまわりが、まるで太陽に向かってせいくらべをしているようでした。

- ① 太陽のまぶしさを、音を使って表げんしている。
- ② 夏の暑さを、くり返しをつかって表げんしている。
- ③ まわりのさいている様子を、たとえをつかって表げんしている。
- ④ ひまわりのさいている様子を、ことわざをつかって表げんしている。

③

埼玉県学力・学習状況調査（小学校）

復習シート 第四学年 国語



組

番号

名前

模範解答

【「読むこと」を問う問題】

1

次の文章を読んで問いに答えましょう。

ありには、ある年、たくさんな子供こどもが生まれました。それらの子供のありは、だんだんあたりを遊びまわるようになりました。するとあるとき、それらの子ありのお母さんは、子供らに向かつていいました。

「おまえがたは、あのくるみの木に上ってもいいけれど、けっして、赤くなった葉につかまつてはならぬぞ。いまは、ああしてどの葉を見ても、真っ青だけれど、やがて秋になると、あの葉が、みんなきれいに色がつく、そうなると危あぶないから、きつと葉の上にとまつてはならぬぞ。」と、※①戒いましめたのでありました。

ある日のこと、五匹ひきの子ありが外に遊んでいて、大きくなるみの木を見上げていました。「なんとという大きな木だろう。こんな木が、またとほかにあるだろうか。」と、一匹のありがいました。

「まだ世界には、こんな木がたくさんあるということだ。これより、もっと大きな木があるということだ。」と、ほかの一匹の子ありがいました。

「お父さんや、お母さんは、あの木のとっぺんまで、お上りになったといわれた。僕ぼくたちも、どこまでいけるか上ってみようじゃないか。」と、ほかの一匹のありがいました。

ついに五匹の子ありは、大きくなるみの木に上っていききました。そこで、※②中途ちゆうとまでいった※③時分つかには、五匹とも疲つかれてしまつて、しばらく、枝えだの上に休んで、物珍ものめずりしげに、あたりの景色けしきなどをながめていました。

※①戒め…注意すること

※②中途…とちゅう

※③時分…おおよその時期、時間

（出典 小川未明 「三匹のあり」より）

（1）「つかまってはならぬぞ。」とありますが、お母さんありがたいっている葉の色は何色ですか。

レベル5

赤

登場人物が伝えている内容を読む問題です。「つかまってはならぬ」という言葉に着目すると、そのすぐ前に「赤くなった葉に」とあることから、赤色だとわかります。

（2）「こんな木」とありますが、何の木を見て言っていますか。文中から三字でぬきだして書きましょう。

レベル7

く
る
み

指し語がさす内容を読む問題です。会話文の前に着目すると、「大きなくるみの木を見上げていました。」とあることから、くるみの木をさしているとわかります。

（3）「ついに五匹の子ありは、大きなくるみの木に上つていきました。」とありますが、木に上ったのはなぜですか。次の1～4の中からえらびましょう。

レベル7

- 1 世界にある、もっと大きな木を見つけようとしたから。
- 2 お父さんや、お母さんのように上れるかためしたかったから。
- 3 疲れてしまつて、枝のえだ上に休みたかったから。
- 4 物珍ものめずらしげに、あたりの景色などをながめたかったから。

2

気持ちを読む問題です。この文の前に着目すると、「お父さんや、お母さんは、あの木のでっぺんまで、お上りになったといわれた。僕たちも、どこまでいけるか上ってみようじゃないか。」とあることから、高く上りたい、挑戦したいという気持ちが理由であるとわかります。

1 見つけようとしていない。

3 疲れたつかからではない。上っている間に疲れた。

4 ながめたかったのではない。休んでいる間の様子。